

6. 面材耐力壁 (注) (單位) mm

6.1 決議事項

(1) 昭56建告1100号に準じた耐力壁号に準じた耐力壁 面材種類:構造用パーティクルボード、構造用MDF、構造用合板、構造用パネル (OSB)

面材種類：構造用パーティクルボード、構造用MDF、構造用合板、構造用パネル（OSB）

[Home](#)
[About Us](#)
[Services](#)
[Contact Us](#)
[Privacy Policy](#)
[Terms of Service](#)

[Home](#)
[About Us](#)
[Services](#)
[Contact Us](#)
[Privacy Policy](#)
[Terms of Service](#)

01. 文の持つと美生は保樹の生



01. 文の持つと美生は保樹の生



3) 面材の釘打ち方法 ※ 構造用合板には、CN釘を用いること。

-2. 標準仕様大壁耐力壁 壁倍率：2.5

	$\alpha = 1$ (直倍率仕様) に同じ
---	--------------------------

[illegible]

--	--

3) 面材の釘打ち方法 ※ 構造用合板には、CN釘を用いること。

※ 床勝ち仕様の場合の受け材及び釘打ち方法はa-1.に準ずる

b-2. 標準仕様真壁耐力壁 壁倍率： 2.5

☐ A ☐ B ☐ C ☐ D $b=1$ (高倍率仕様) に図1*
--

③ 両材の釘打ち	と、(高効率仕様)に同じ
----------	--------------

※床勝ち仕様の場合の受け材及び釘打ち方法は a-2. に準ずる

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

(4) 耐力壁を構成する合板の幅は300mm以上とする
 図・耐力壁 1mに於ける合板910×1320mmの貼り方



木造標準図 (3)

6 B. 昭56建告第1100号第1第一号に基づく面材張り大壁耐力壁納まり図

(注) (単位) mm

6B.1 共通事項

- ・面材は、9mm以上を基準とする。
- ・間柱・受材・筋違等構造に関わる羽根材の品質については、未乾燥材および皮付材は不可とし、四面ピン角、ねじれ、反りの無い物とすることを原則とする。
- ・釘ピッチの基準は使用釘本数を満たしている必要がある。
- ・記載のピッチは「辺り長さ÷ピッチ÷1本」と読むこととする。

・開口直下の梁への間柱ききは、原則行わない事。

・間柱(受材)を梁等へ留め付ける場合、釘及び木質構造用ビスの長さは、受け材厚さの2.5倍以上を標準とする。

※受け材厚 30mm の場合は、475、ON75以上

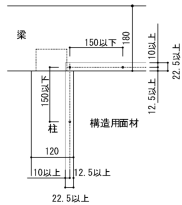
※受け材厚 45mm (耐力壁: ス水平のみを負担する場合) は、N90、ON90以上

(真壁の受け材留め付けと合わせる)

※受け材厚 45mm (水平横面 鉛直力と水平力を負担する場合) は、N115、木質構造用ビス L110以上

1. 直交梁との取り合い

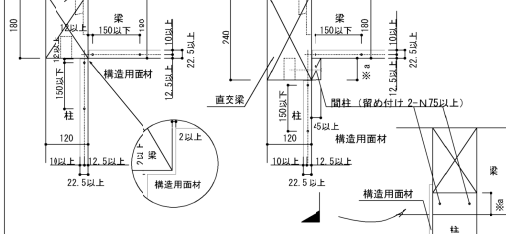
A: 通常



B: 合板端欠

B-2: 合板端欠

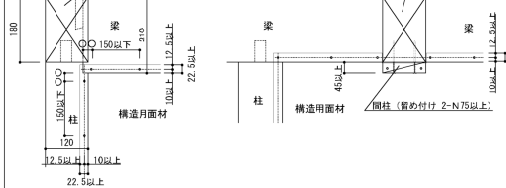
※ a (梁と直交梁の差) が規定の釘ピッチを超える場合



C: 柱寄せ

D: 耐力壁内に直交梁が在るとき

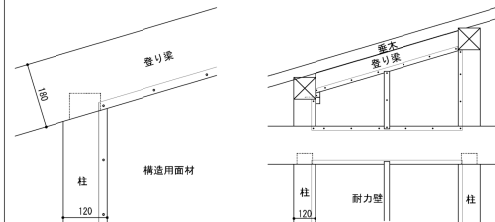
※好ましくない納まり



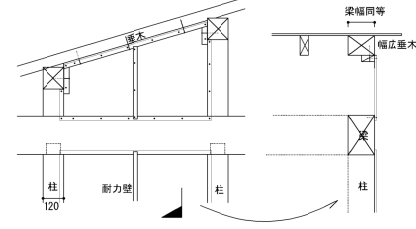
2. 勾配屋根の納まり

A: 登梁

B: 妻側横面納まり



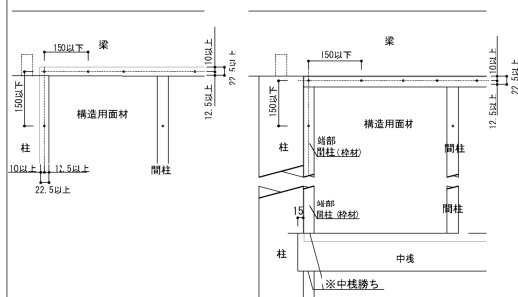
C: 登梁無し妻横面



3. 受材・間柱勝ちルール

A: 枠無し

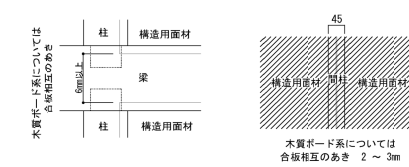
B: 枠有り



4. 面材相互あきのルール

A: 上下面材あき

B: 間柱取付面材あき



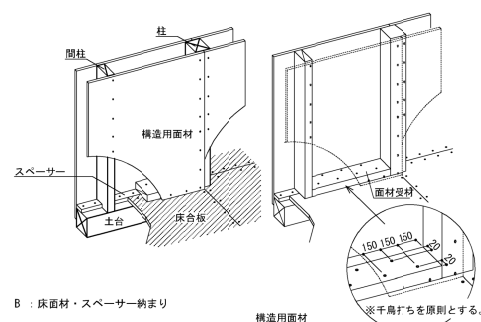
5. 入隅納め、及び枠用ホールダウン納め



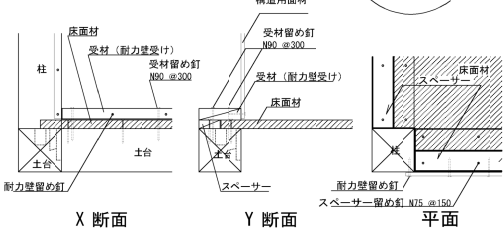
※ (枠) タナカ 枠材用ホールダウン H M L (30 , 45)
※ (枠) カネシマ 枠材用フレックスホールダウン 枠材厚 45mm まで

6. 床断面材との取り合い

A: 面材受材納まり



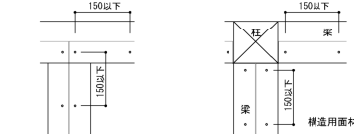
B: 床面材・スパーサー納まり



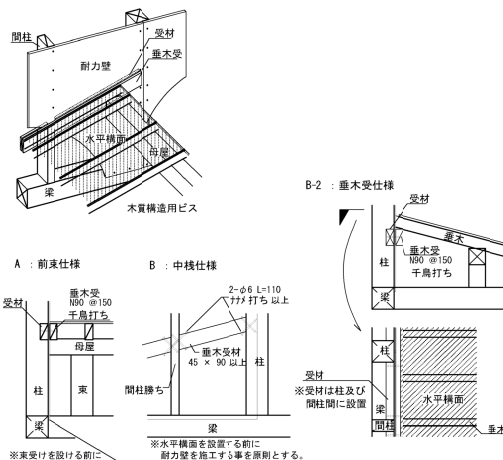
7. 水平横面

A: 通常

B: 合板端欠

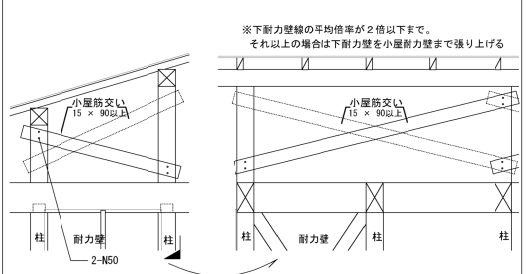


8. 下屋部分の納まり

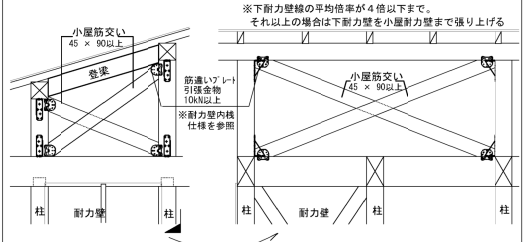


9. 小屋筋交い

A: 2倍耐力壁仕様



B: 4倍耐力壁仕様



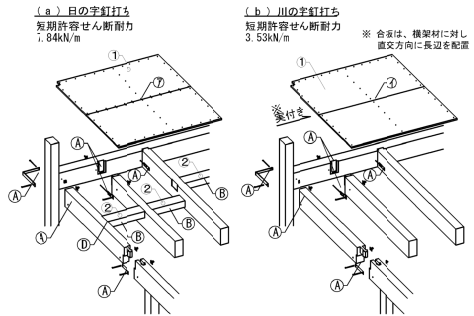
木造標準図（４）

7. 水平構面

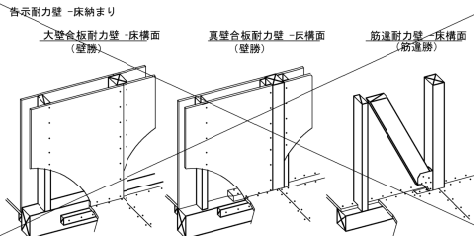
7.1 共通事項
・木軸組工法住宅の許容応力度設計（2017年）の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠するとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。

7.2 水平構面の仕様

(1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面

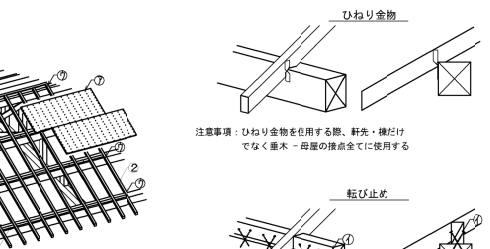
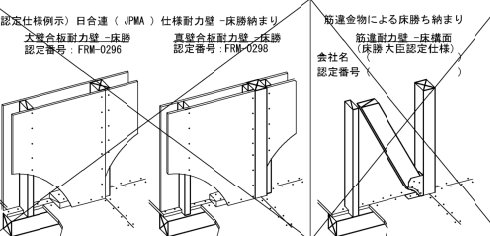
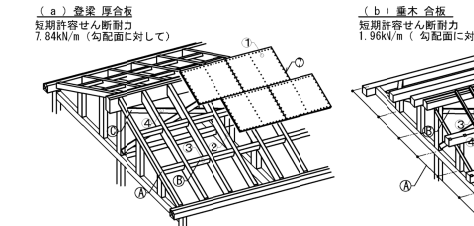


(2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面



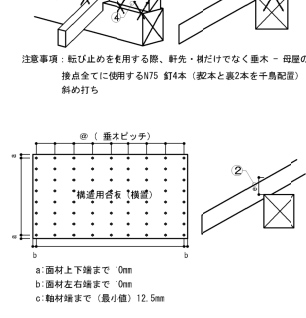
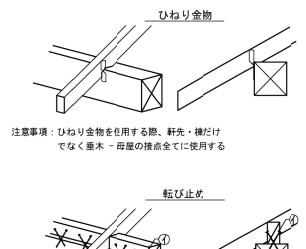
- 1) 各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ ～ 30mm 構架材に直貼
 - ② 甲乙梁：幅 45mm 以上 $\times$ せい 45mm 以上・梁及び甲乙梁の間隔 1000mm 以下
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 各仕口部分：
 - 水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - ⑥ 高低差のある梁へは側面に床受材材を取り付け構造用合板を受ける構成
 - ⑦ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ ⑦5 1本斜め打ち
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板は $N75@150\text{mm}$ 日の字釘打ちで構架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
 - ※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造図の釘仕様を優先する。
 - ④ 構造用合板は $N75@150\text{mm}$ 川字釘打ちで構架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
 - ※ 構造用合板は、実付きとする
 - ※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造図の釘仕様を優先する。
- 注意事項：構造用合板（又は OSB）に対する釘頭のめり込みは、 2mm を限度とする
 2mm を超える場合は溝り合う釘との中間部に増し打ちすること
 川字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、換み等に注意する事

(2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面



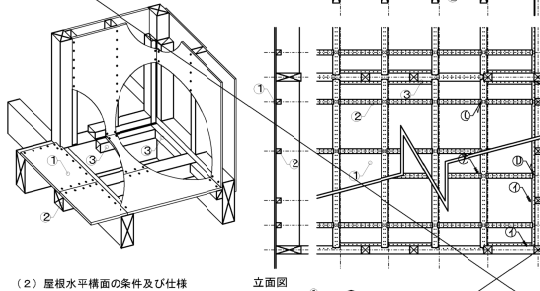
- 1) 各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ ～ 30mm 構架材に直貼
 - ② 登梁：幅 105mm 以上 $\times$ せい 105mm 以上 間隔 1000mm 以下
 - ③ 甲乙梁：幅 45mm 以上 $\times$ せい 45mm 以上 間隔 1000mm 以下
 - ④ 小梁耐力壁： 15mm 以上 $\times$ せい 90mm 以上
（端部は平 12 建寄 1460 号の筋違耐力壁の接合）
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - ⑥ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小梁耐力壁（くも筋違い）を設ける事
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板は $N75@150\text{mm}$ で日の字・小梁に留め付ける
 - ※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造図の釘仕様を優先する。
- 注意事項：構造用合板（又は OSB）に対する釘頭のめり込みは、 2mm を限度とする

- 1) 各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板 $t=9\text{mm}$ ～ 15mm （横置）
 - ② 重木：幅 45mm 以上 $\times$ せい 45mm ～ 90mm @ 500mm 以下
 - ③ 小梁耐力壁： 15mm 以上 $\times$ せい 90mm 以上
（端部は平 12 建寄 1460 号の筋違耐力壁の接合）
 - ④ 転び止め： 45mm $\times$ 60mm 程度
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 母屋ピッチ： 1000mm 以下
 - ⑤ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小梁耐力壁（くも筋違い）を設ける事
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板は $N50@150\text{mm}$ で川の字・重木に留め付ける
 - ※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造図の釘仕様を優先する。
 - ④ 転び止めに梁に $t=N75$ 斜め釘止め
 - ⑦ 重木の留め付けは、重木の側面から軒桁、母屋、横木の上面に対して $N75$ 釘2本打ち



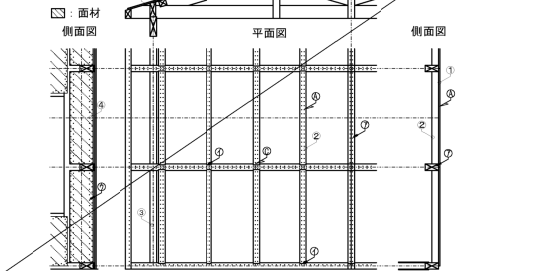
7.3 JIS A3301 仕様高耐力水平構面

2階床水平構面の条件及び仕様
 短期許容せん断耐力
 14.1KN/m



(2) 屋根水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
 13.5KN/m (合板釘ピッチ 75mm)
 19.1KN/m (合板釘ピッチ 50mm)



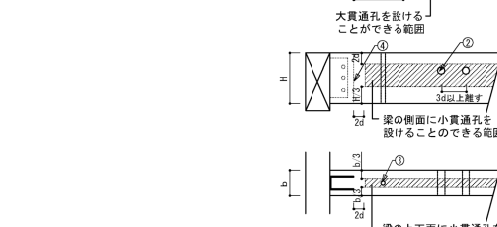
- 1) 各部材料
- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 又は 28mm 構架材に直張り
 - ② 甲乙梁： 90mm $\times$ 90mm の正角材又は幅 75mm $\times$ 成 120mm 製材を平使い
 - ③ 大梁側面に取り付ける床受材：幅 55mm $\times$ 75mm $\times$ 成 120mm の製材
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - ⑤ 高低差のある梁へは側面に床受材材を取り付け構造用合板を受ける構成
 - ⑥ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
 - ⑦ 甲乙梁端部は床受材材に対して床受材材を深さ 15mm $\times$ 成 60mm 切り欠き甲乙梁は成 60mm 分大入れし床受け材の納まりとする
 - ⑧ 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板は $N75@75\text{mm}$ 日の字釘打ちで構架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
- ① 大梁側面へ取り付ける床受材は木質構造用ビスφ 6, L130 ～ 150 を 150mm ピッチの二列打ちとして留め付ける

- 1) 各部材料
- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 登梁及び母屋に直張り
 - ② 母屋：幅 120mm $\times$ 成 120mm の製材
 - ③ 多量区画（3級及び4級）の場合は幅 120mm $\times$ 成 150mm の製材
 - ④ 軒先転び止め：幅 105mm $\times$ 成 300mm の製材を用い、天端は屋根面に合わせ切り欠く
 - ⑤ 軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板： $t=12\text{mm}$
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
 - ⑤ 屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
 - ⑥ 母屋端部は登梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 13.5KN/m 仕様 構造用合板は $N75@75\text{mm}$ 4周（口の字）釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
 - 19.1KN/m 仕様 構造用合板は $N75@50\text{mm}$ 4周（口の字）釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
 - ④ 母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビスφ 5, L150（頭部径φ 12.5以上ねじ部長さ 50以上）1本を斜め打ちとする
 - ⑤ 軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は、 $N50$ 以下の 50mm ピッチの二列打ちとして留め付ける

8. 貫通孔

8.1 床貫通孔の条件及び仕様

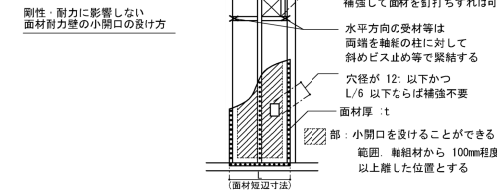
- ① 大貫通孔： $d \leq H/4$ かつ 150mm
- ② 小貫通孔： $d \leq 30\text{mm}$ （隣り合う孔は $3d$ 以上離す）
- ③ 細小貫通孔： $d \leq 6\text{mm}$ かつ 30mm
- ④ 接合金物用切り欠きライン



8.2 耐力壁貫通孔

(1) 小開口耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017 年版）

※壁倍率 7 倍までの開口率ルール



(2) 高耐力仕様合板貼耐力壁（JIS A3301 標準仕様）

※壁倍率 7 倍を超える場合の開口率ルール（JIS A3301 仕様）

8.1 貫通孔基準

- ④ 小貫通孔（ $d \leq 30\text{mm}$ ）
1箇所につき 1か所までなら補強不要
- ⑤ 小貫通孔 $\times 3$ （外接円の径 $d \leq 240\text{mm}$ ）
四周を補強受材で補強
面材 1枚につき 1か所のみ可
- ⑥ 大貫通孔（ $d \leq 240\text{mm}$ ）
四周を補強受材で補強
面材 1枚につき 1か所のみ可

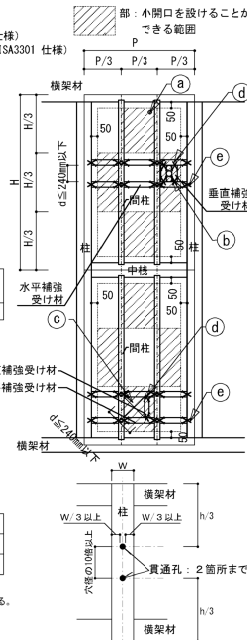
8.2 釘打ち及び断面

- ④ 合板から補強受材へ $N50@90\text{mm}$ で釘打ち
補強受材は間柱と同寸以上の断面
- ⑤ 補強受材の留め付けは斜めビス 2 本止め

8.3 柱貫通孔の条件及び仕様

柱幅W	最大穴径
120mm以上	30mm以下
105mm	20mm以下

※貫通孔は2箇所までとする。
 ※上記より貫通孔を大きくするときは設計者の確認を要する。
 ※木材を取り付けた柱においては水平力を負担するので貫通孔を設けないこと。



鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項

(1) 適用範囲

構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d... 異形棒筋の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 R... 直径
e... 間隔 r... 半径 C... 中心線
ST... あばら筋 HOOP... 帯筋 S.HOOP... 補強帯筋 φ... 直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	18°	135°	90°	折まげ角度 90° はスラブ筋、壁筋の束筋またはスラブと同時に打ち込む 1 階および 1 階梁のキャンプタイにのみ用いる。
図				キャンプタイ
鉄筋の余長	4d 以上	6d 以上 (※ 4d 以上)	8d 以上 (※ 4d 以上)	
折曲げ内寸法 R は	SR235 は 3d 以上、SD295A、SD295B、SD45 の D16 以下は、3d 以上、D19 以上は 4d 以上			※ 片持スラブ、上縁筋の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折曲げ角度 90° 以下

図	鉄筋の使用場所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内寸法 (R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A、SD295B、SD345	16φ 以上 D16 19φ 以上 D16	3d 以上 4d 以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A、SD295B、SD345	16φ 以上 D16 19φ ~ 25φ D19 ~ D25 28φ ~ 32φ D29 ~ D38	6d 以上 8d 以上

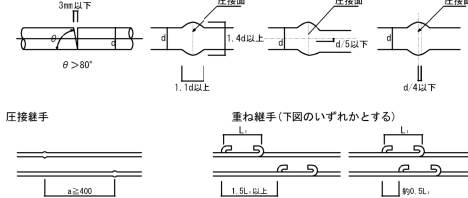
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	普通、軽重コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L _n)
		一般 (L _n)	下端筋 (L _n)	
SR235	21 ~ 36 18 以下	35d フックつき 45d フックつき	25d 15d フックつき	35d フックつき 45d フックつき
SD295A、SD295B、SD345	21 ~ 36 18 以下	35d または 25d フックつき 40d または 30d フックつき	25d または 15d フックつき 10d かつ 15cm 以上	30d フックつき 45d または 35d フックつき

継手

- ・ 束筋のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- ・ 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- ・ 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- ・ D21 以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- ・ 鉄筋径の差が 7mm を超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



(4) かぶり厚さ (単位: mm)

ひびわれ試験後、地盤部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても、最小のかぶり厚さを確保する。

部位	設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分		
土に接する部分		

部位	設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分		
土に接する部分		

※ (1) 軽重コンクリートの場合は、10mm 増しの値とする。
※ (2) 内は仕上げがある場合。

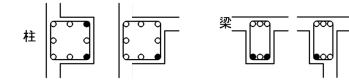
(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値 1.5d 以上 粗骨骨の最大寸法の 1/25 倍にかつ 25d 以上



(6) 鉄筋のフック (a-f に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- a: 丸鋼 b: あばら筋・帯筋 c: 煙突の鉄筋
- d: 柱、梁 (基礎梁は除く) の出ずり部分の鉄筋 (右図参照)
- e: 基礎梁の下端筋
- f: その他、本配筋標準に記載する箇所



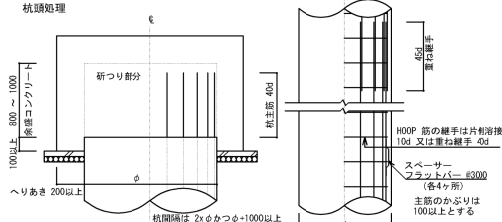
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

3. 材 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PC 杭、又は PHC 杭の全てに補強を行う

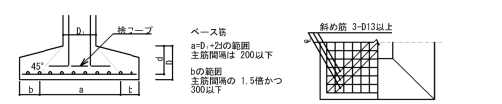
所定の場所によった場合	所定より低く止まった場合
杭 径 300φ、350φ、400φ	450φ、500φ、600φ
補強筋 6-D13	8-D13、10-D13、8-D16、10-D16
H O O F	D10~150

(2) 地盤打ちコンクリート杭

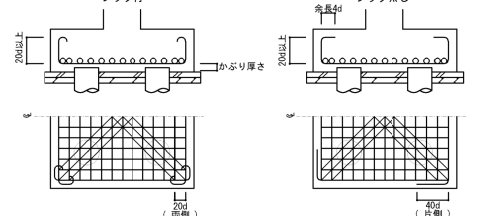


4. 基礎

(1) 直接基礎

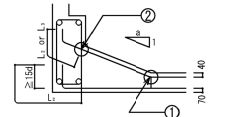


(2) 杭基礎



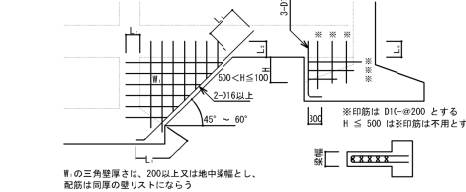
(3) ベタ基礎

ハンチを付けた場合 (a ≧ 3)



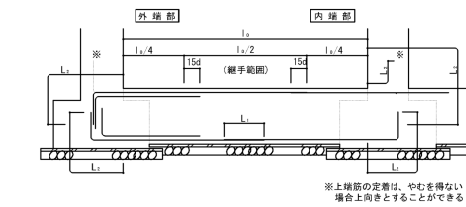
- ・ 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
- ・ 但し上筋と下筋を挟みかえる
- ・ ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ・ ②の鉄筋はD13以上
- ・ 埋戻し土のある場合は 40 と 70 とする

(4) 基礎接合部の補強

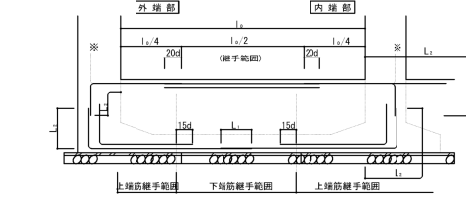


5. 地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



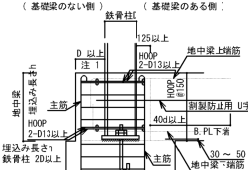
(2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



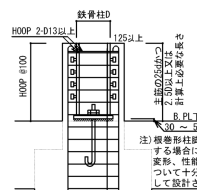
(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋

※ 地中梁の主筋と隅付スタッドによる、おきまりに注意する

埋込形

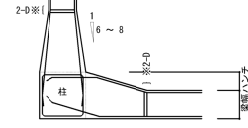


根巻形

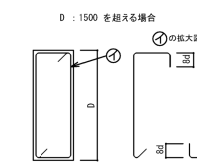


(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

ハンチ 梁筋 ハンチ ※ 梁のあばら筋と同様のものを 2 本用いる

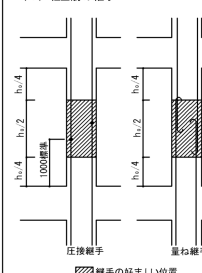


(5) せいの高い梁のあばら筋加工要領

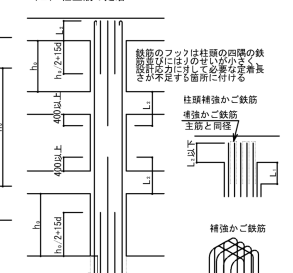


6. 柱

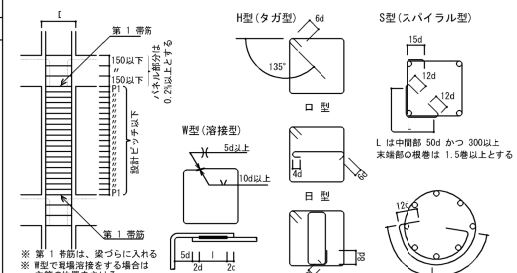
(1) 柱主筋の継手



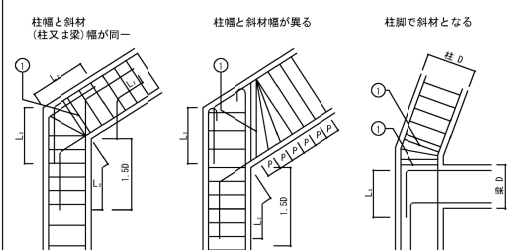
(2) 柱主筋の定着



(3) 帯筋

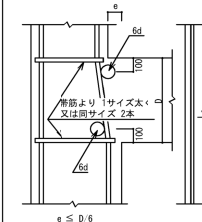


(4) 斜め柱・斜め梁

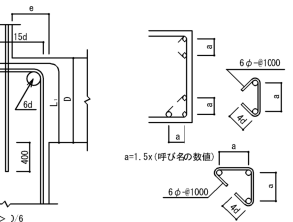


※ 1.5φ の範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし φ100 以下とする
※ ①の鉄筋は 2-D13 かつ、2 本の一段太い鉄筋とする

(5) 絞リ



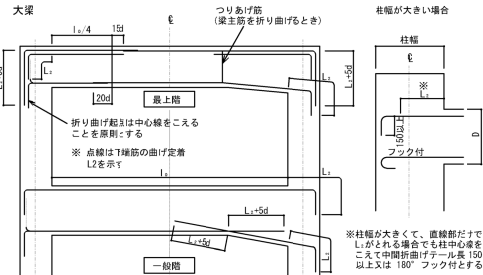
(6) 二段筋の保特



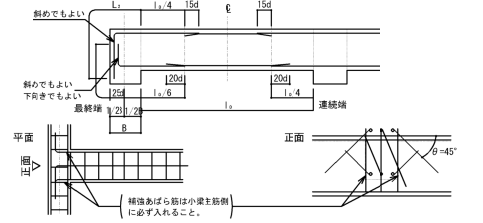
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

7. 大梁、小梁、片筋梁

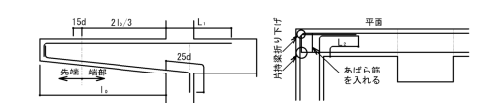
(1) 定着



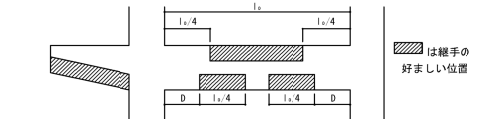
小梁の定着



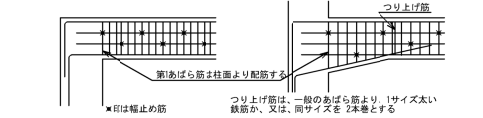
片筋梁の定着



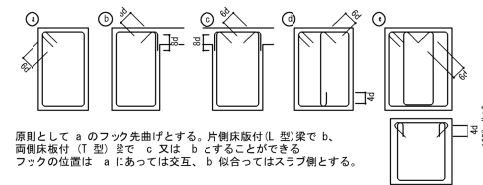
(2) 大梁主筋の継手



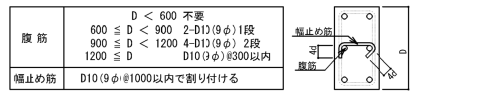
(3) あばら筋、腹筋、垂止めの配置



(4) あばら筋の型 (注 床板がない場合に 135°以上のフックとする)

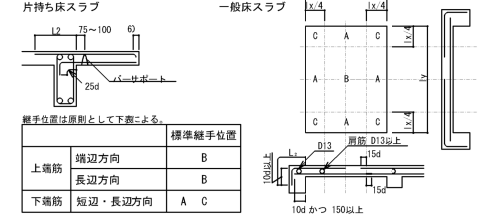


(5) 垂止め筋の本数、加工

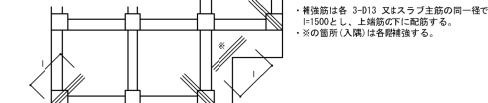


8. 床板

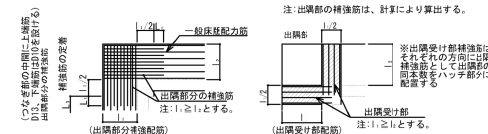
(1) 定着および継手



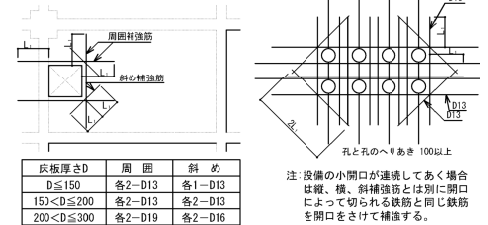
(2) 屋根スラブの補強



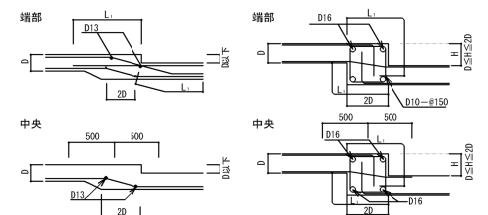
(3) 片持ちスラブ出隅部補強



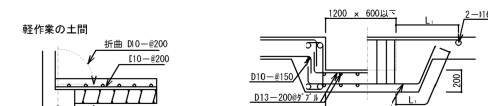
(4) 床板開口部の補強 (開口の径500程度の場合)



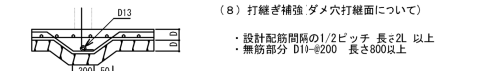
(5) 床板段差



(6) 土間コンクリート

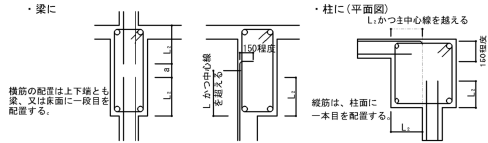


(7) 金網

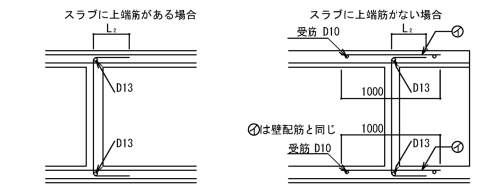


9. 壁

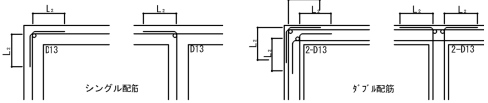
(1) 定着



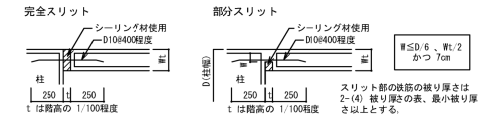
・床に (非耐力壁とスラブが取り合う場合)



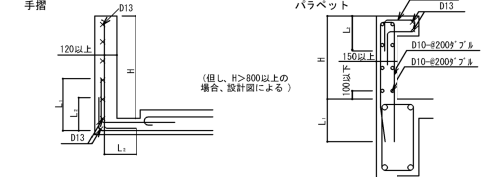
・壁と壁 (平面図)



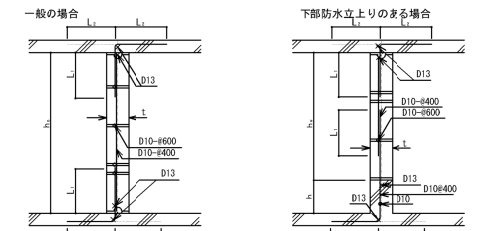
(2) スリット部 (設計図に記入のあるとき)



(3) 手摺、パラベット



(4) コンクリートブロック積壁



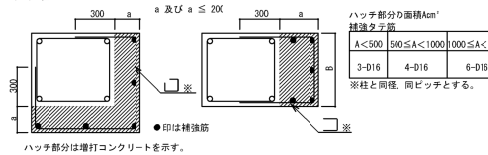
※h≦15かつ3500以下とする。但し直交方向25t以内の壁。又は柱がある場合は除く

※hはコンクリートブロック数数値寸法とする。但し、200≦h≦400

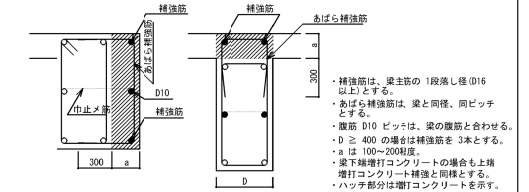
※継手部は必ずモルタルを充填すること

10. 柱、梁増打コンクリート補強 ※増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと

(1) 柱

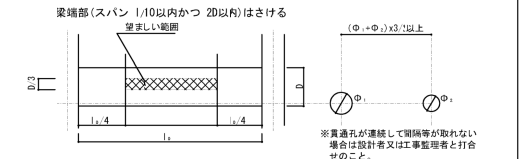


(2) 梁



11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲



(2) 鉄筋標準配筋

※ 但し、φ≦ D/3 とする

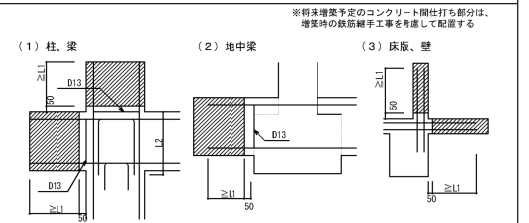
84 ≦ φ ≦ 100 折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D13	100 < φ ≦ 150 折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D13-φ100 横 筋 2-(2-D13)	150 < φ ≦ 250 折 筋 4-(2-D13) 縦 筋 ST2-D13-φ100 横 筋 2-(2-D13) 上下縦筋 ST2-D13
φ > 250 孔補強の有効範囲と 定着長さのとり方 ※ 断面について計算で 確認された場合は右 記の位置、寸法によ らなくてよい。		・梁幅が 40φ を超える場合は 縦筋強度が φ13 ≧ φ16 又は、 2-D13 は 2-D13 と、各々 読みかえる

(3) 既製品

※使用するとき、設計者又は工事監理者と打合せのこと

□ I 型型 □ バイプ型 □ 金網型 □ プレート型

12. 増築予定



(1) 柱、梁



※地耐力 100KN/m²確保をお願いします。

基礎パッキン 20mm

KES120仕様

特記なき柱接合部は、断面毎に柱接合部対応表に示す接合部とする
6通り、7通り、7+730通り、12通り、
16+170通り、17通り、18通りの土台用アンカーボルトはM16

※特記なき上スラブは、S1とする。(天端=G L+120)

※特記なき下スラブは、FSとする。(下端=G L-1680)

※特記なき基礎梁は、FG1とする。

- 土台用アンカーボルト [M12 L450] 233本
- 土台用アンカーボルト [M16 L500] 36本
- コネクタ用アンカーボルト [M12 L450] 212本
- コネクタ用アンカーボルト [M16 L600] 308本
- コネクタ用アンカーボルト [M20 L600] 112本
- コネクタ用アンカーボルト [M30 L800] 96本

コネクタ番号	現場送りBコネクタ	アンカーボルト	個数
B15a	特殊コネクタ(150角用) PL=12mm	4-M12	30
B15b	特殊コネクタ(150角用) PL=16mm	4-M16	3
B15c	特殊コネクタ(150角用) PL=16mm	4-M16	3
B1518a	特殊コネクタ(150×180用) PL=12mm	4-M12	2
B1524a	特殊コネクタ(150×240用) PL=12mm	6-M12	8
B1536a	特殊コネクタ(150×360用) PL=12mm	10-M12	2
B18a	特殊コネクタ(180角用) PL=12mm	4-M12	2
B21a	特殊コネクタ(210角用) PL=12mm	4-M12	2
B1842a	特殊コネクタ(180×420用) PL=22mm	10-M20	2
B1848a	特殊コネクタ(180×480用) PL=25mm	14-M20	2
B1524b	特殊コネクタ(150×240用) PL=16mm	6-M16	23
B1530b	特殊コネクタ(150×300用) PL=16mm	8-M16	4
B1536b	特殊コネクタ(150×360用) PL=16mm	10-M16	3
B1830b	特殊コネクタ(180×300用) PL=22mm	8-M20	4
B1830b	特殊コネクタ(180×300用) PL=19mm	8-M16	2
B1836b	特殊コネクタ(180×360用) PL=22mm	8-M20	4
B2160b	特殊コネクタ(210×600用) PL=32mm	12-M30	8
B1524c	特殊コネクタ(150×240用) PL=19mm	8-M16	6
B1530c	特殊コネクタ(150×300用) PL=19mm	10-M16	2
—	鋼製束(TD鋼製束L700)		251

※高上げ金物
※高上げ以外

※Bコネクタは建て方の前日までに必ず基礎にセットして下さい。

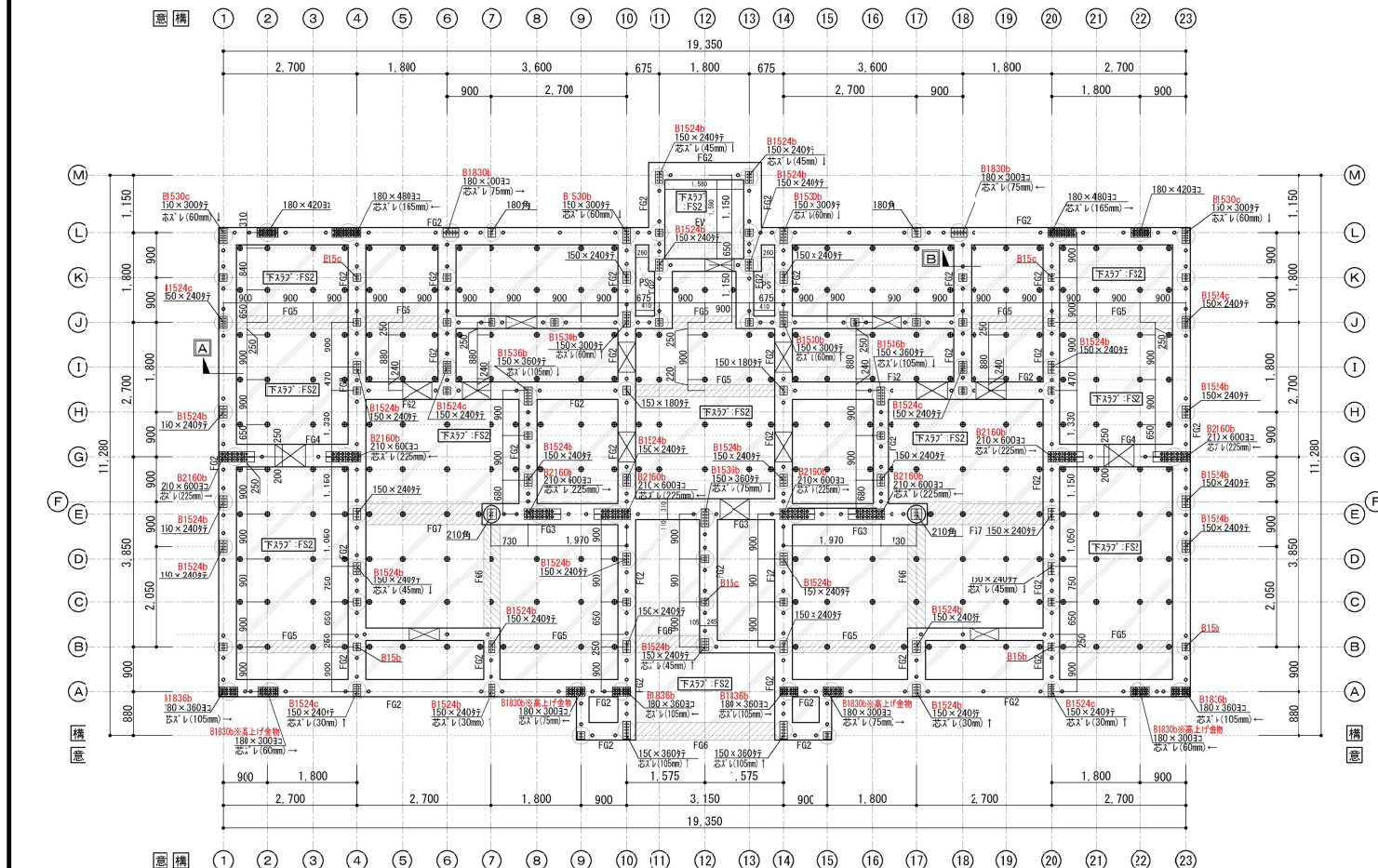
基礎伏図記号凡例

- ⊕ Bコネクタの位置を示す
- P柱位置を示す
- 土台用アンカーボルト
- ⊕ 鋼製束
- ▲ 土台・大引継手位置
- 人通口(開口部補強)
- 地中梁

※A・L通りの基礎梁外周面は芯から120mm(105mm+15mm)とする。
その他の基礎梁外周面は芯から103mm(90mm+15mm)とする。

柱接合部対応表

断面	接合部
150×150	B15a
150×180	B1518a
150×240	B1524a
150×360	B1536a
180×180	B18a
210×210	B21a
180×300	B1830a
180×420	B1842a
180×480	B1848a



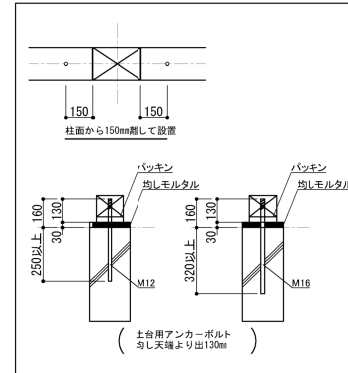
基礎梁リスト

記号	FG 1	FG 2	FG 3	FG 4	FG 5	FG 6	FG 7
b×D	250 (b)×230 (D)	350 (b)×230 (D)	420 (b)×230 (D)	450 (b)×230 (D)	250 (b)×180 (D)	350 (b)×180 (D)	420 (b)×180 (D)
断面							
主筋	4-D16	4-D22	5-D22	8-D22	4-D16	4-D22	5-D16
次筋	4-D16	4-D22	5-D22	8-D22	4-D16	4-D22	5-D16
STP	□D10@200	□D13@100	□D13@150	□D13@150	□D10@200	□D13@200	□D13@200
鉄筋	14-D10	14-D10	14-D10	14-D10	10-D10	10-D10	10-D10
中心の長	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000

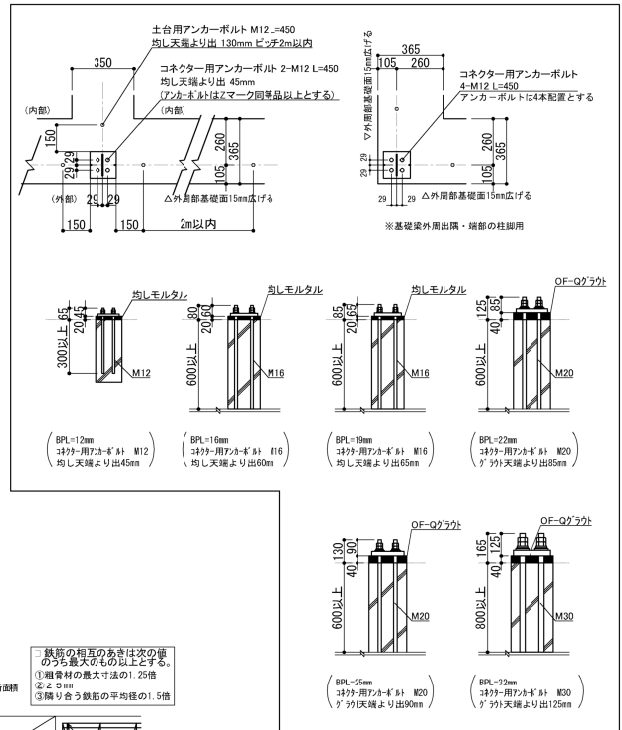
スラブリスト

記号	スラブリスト
FS 1	
FS 2	
S 1	

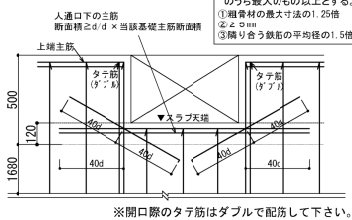
【土台用アンカーボルト設置位置】



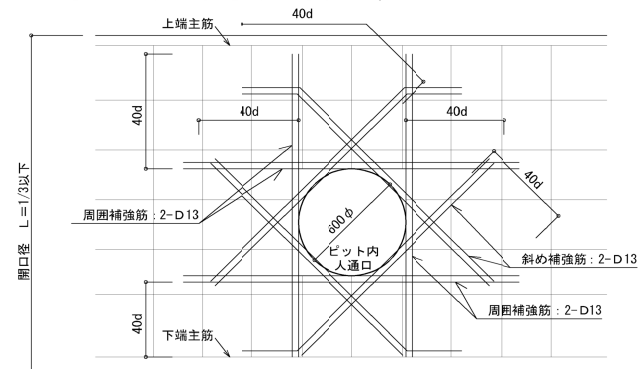
【アンカーボルト配置図】



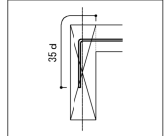
【人通口配筋図】



【ビッド内人通口配筋図】人通口補強筋 (600φ)



【スラブと梁の定着】



S D 2 9 5
(D 1 6 以下)
S D 3 4 5
(D 1 9 以上)
F c = 2 1 N / m m²
地耐力 = 1 0 0 K N / m²

A部基礎断面図

B部基礎断面図